

今後の小・中学校のあり方は

質問

学校教育において、少子高齢化が進み、良い面・悪い面で、子ども達の学び環境などが変化してきている。

学校施設の老朽化など、様々な問題提起をしても、すぐに実現することは不可能であると考えられる。

10年・20年先を見据え、教育上、子ども達を第一に考え、将来に向けた検討を始めていただきたいが。

教育部長

教育委員会でも、検討してもらったが、現時点では、具体的に検討するのは、小規模校のメリット・デメリットなど諸条件を考慮すれば、時期尚早との意見も出た。

今後は、近隣市町村の視察・意見交換、情報交換などしながら検討に入りたい。

質問

市内の小中学校の、少子化における影響は。

教育部長

学校の適正規模が、学校基本法施行規則第41号で、小学校の学級数を12学級～18学級以下を標準としている

県での学級編成は、1年生・2年生は35名、3年生以上は40名編成となっている。

文科省では、小学校の5学級以下を過小規模校と位置づけ、6学級～11学級を小規模校としている。

中学校では、3学級～11学級を小規模校としている。

市内の小中学校では、全12学校中、小規模校が6校、標準校が5校、大規模校が1校である。

中学校では、小規模校4校、標準校1校、大規模校1校である。

質問

今後の市内の生徒の推移は。

教育部長

出生数から推移したデータによると、平成29年度で、平成24年度と比較し、1校当た

り最大の減少は、小・中学校ともに、5クラス減少する学校がある。

また、1学年1学級の生徒数の最小クラスは、中学校で35名編成、小学校で1クラス8名、との見込みが出ている。

質問

小規模校のメリット・デメリットは。

教育部長

メリットは、学習面で個性や特性に応じた教育活動ができ、個々の能力や適性を伸ばすことができると考えられる。

デメリットは、体育や音楽が成立しにくくなり、集団活動が難しくなってくると考えられる。

質問

今後に向けて検討の必要があると思うが。

教育長

10年後には、小規模校がさらに増えると考えられる。

教育委員会でも十分に検討し、考え方をまとめていきたい。



日永貴章 議員



佐屋小学校（大規模校）